令和５年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 片柳　小学校 ）　　学校番号　０６２　　【様式】

目指す学校像	「たくましく　学びを紡ぐ　**やなぎの子**」「**やり**ぬく子、**な**かま思いの子、**き**まりをまもる子、**の**びる子・のばす子、**こ**ころざしをかかげる子」の育成
重点目標	１　ICTを活用しながら確かな学力を身に付け、学ぶ楽しさを実感させる事業の実践 ２　安全・安心な教育環境を提供できる組織的な体制（予防・緊急対応・事後指導） ３　小中合同の学校運営協議会での地域との方向性の共有と実践 ４　教職員一人ひとりがやりがいと居場所が感じられる組織的な職場環境創り

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和５年２月２７日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	＜現状＞ ○各教科でタブレットPCやプロジェクターを効果的に活用することで授業も始めの導入を更に工夫し、学習意欲を高める。 ○次年度もスタディサプリで動画視聴時間、確認テスト完了講義、問題回答数、最終ログイン日時を効果的に活用する。 ○タブレットＰＣを活用したハイブリッド授業が進められている。 ○オンライン授業のおかげで、登校を控えていた児童の学びを止めなかったのはよかった。 ＜課題＞ ○ハイブリッド授業の様子を保護者や地域に公開する機会が少なかった。 ○タブレットＰＣの毎日の持ち帰りは、重量から考えて児童の負担になるので心配である。	・教育DXで実現させる学びの自律と個別最適化	①個に応じた成績や出席情報、学習履歴を可視化することで「個別学習計画」につなげ個人の学びに何が必要なのか理解させ「個別最適な学び」を目指す。 ②スタディサプリやドリルパークの学習履歴をもとに自分の弱点を理解させ、学習計画を立てる。	①　令和５年度の学校評価児童アンケートで「勉強をあきらめないで、目標としたところまでやりとげた」で肯定的な回答で９５％以上となったか。 ②　令和５年度の学校評価児童アンケートで「タブレット PC を活用した学習に進んで取り組んだ」で肯定的な回答が９５％以上となったか。	①　令和５年度の学校評価児童アンケートで「勉強をあきらめないで、目標としたところまでやりとげた」で肯定的な回答で９０％であった。 ②　令和５年度の学校評価児童アンケートで「タブレット PC を活用した学習に進んで取り組んだ」で肯定的な回答が９４％であった。	B	○１０％の否定的回答の児童に対して適切な目標設定をもたせる具体的な例を担任から提供する。 ○朝自習や宿題だけではなく、スクールダッシュボードでの毎朝の「おはようタイマー」等で児童のタブレット PC 活用率を高める。	児童に対しての一定の効果を上げているのは素晴らしいと思います。翻って ICT 活用が教職員の方の負荷にはなっていないのか、同様に『働き方改革』への貢献につながっているのかが知りたいと思います。
		・ICT を活用して学ぶ楽しさを実感させる授業実践	①毎週の３役での打ち合わせや管理職が分担して教室訪問をすることで、偏った見方ではなく総合的に学級の状況を判断する。 ②SA の適切な配置による学級支援体制を構築する。	①　各教科、因子別・設問別　市平均（「よい授業」令和５年第２回１２月調査）で８０％以上の教職員が市平均を上回る。 ②　SA の配置について学校評価で肯定的な意見が昨年度７８％から８０％以上になったか。	①　本年度から「よい授業」のアンケートから「学びの指標」に変更になったので、学校評価で判断をした。「よい授業が実践された」で８０％の教職員の肯定的な回答あった。 ②　SA の配置について学校評価で肯定的な意見が８１％であった。	B	○　「学びの指標」で教職員の８０％が市の平均を上回る。その為には次年度も教室訪問をし、適時指導・助言をする。 ○SA の適切な配置による学級支援体制を構築する。	
2	＜現状＞ ○令和４年度の傷病者４０６人（１・２学期）で児童数を１００％として比べてみると、昨年度は１０２％で今年は９７％であった。児童の運動不足から怪我が多くなっていることを共通理解し、各教科での安全対策（コースロープの修繕、理科や家庭科における火傷に対する注意喚起等）を図った。 ＜課題＞ ○感染症予防のための「新しい生活習慣」の緩和の判断を市教委や近隣校の情報をもとに適切に判断する。 ○学校内及び登下校の安全確認を教職員、保護者、地域の情報をもとに総合的に判断する。	・児童一人ひとりの教育的ニーズ基づいた指導・支援が行えたか。	①毎学期の「心と生活のアンケート」及び毎月の簡易アンケートの適切な早期の確認、内容によって面談を実施して組織的に児童の心の状態を把握する。 ②校内委員会（教育相談・生徒指導委員会）での教職員、SC,SSW での共通理解、組織的な対応	①　保護者アンケートの「子どもは困ったことや心配なことを教職員や保護者等の大人に相談できる」で昨年度８３％から８５％以上となったか。 ②　学校評価・教職員アンケート「生徒指導・教育相談・特別支援教育は、全教職員の共通理解と協力によって進められている」で肯定的な意見が９５％以上になったか。	①　保護者アンケートの「子どもは困ったことや心配なことを教職員や保護者等の大人に相談できる」で８７％であった。 ②　学校評価・教職員アンケート「生徒指導・教育相談・特別支援教育は、全教職員の共通理解と協力によって進められている」で肯定的な意見が９１％であった。	B	○相談は、担任に限らず養護教諭等、話しやすい人に相談できることを朝会や学校だよりで児童に周知する。 ○次年度も「やなぎっ子委員会」で児童の情報を全職員で共有し、組織で対応する。	学校側が施設、設備の安全に配慮しているとの評価を得ているのは良いと思います。気になっているのは計画されていた『リニューアル工事』が中長期的視点で保留になっているかと思いますが本来のその目的である『義務教育学校設立』を進捗させなければならないこととその間にも個別案件については（次年度への課題に挙がっているＬＥＤ化やトイレ改修等）速やかに進められるようにと考えます。
		・安全安心な学校生活を児童が意識しながら活動できたか。	①タブレット保管庫の上開き扉の危険性や遊具や鉄棒を使用する前に両手で揺さぶる等、職員集会で教職員に注意喚起して児童に指導させる。 ②安全点検日以外でも教室訪問時には、廊下の掲示板の画鋲など目を配る。	①　学校評価・保護者アンケート「学校は、施設、設備の安全に配慮している」の項目で肯定的な意見が９０％以上になったか。 ②　令和４年度の傷病者４１１人（１・２学期）を１００％として令和５年度は下回ったか。	①　学校評価・保護者アンケート「学校は、施設、設備の安全に配慮している」の項目で肯定的な意見が８９％であった。 ②　令和５年度の傷病者数は４２７人（１・２学期）と昨年度件数を１６人上回ってしまった。	B	○次年度も学校評価（保護者）にもあるコンビ遊具の撤去、校舎内の LED 化、南校舎のトイレ改修を要望する。 ○傷病者の件数はやや増えたが、昨年より児童が校庭でたくさん遊んでいる姿が見られた。継続して安全に配慮した指導をする。	
3	＜現状＞ ○学校運営協議会の立ち上げから５年目となり、片柳中学校と合同の学校運営協議会３年目なる。昨年度から地域の行事に少しずつではあるが児童が参加できている。 ○授業参観や運動会の保護者の人数を時間で分割したり、人数制限したりした。 ＜課題＞ ○コロナ対策として各行事での保護者の人数を制限しなければならなくなっている。	・小・中合同の学校運営協議会の更なる推進	①小中合同研修会で小中での確認事項（校則やあいさつ運動等）をデータ化して、学校運営協議会での御意見を受け、より良いものを残す。	①　学校運営協議会で小学校の「やなぎっ子の約束」や中学校の「校則」、取り組みの共通理解ができたか。	①「やなぎっ子の約束」を中学校の校則と学校運営協議会を通して共有することができた。学校評価（保護者）で「やなぎっ子の約束」が適切であるという肯定的な意見が９６％であった。	B	○小中合同研修会で小中での確認事項（校則やあいさつ運動等）をデータ化して、学校運営協議会での御意見を受け、更に良いものを残す。	５年目となる学校運営協議会がこれまで特に学校側が地域に対しての情報公開や情報共有を図ってきたことは非常に評価出来る。これからは地域がより学校の課題に協力し推進する段階だと認識している。
		・保護者や地域への各行事及びタブレット PC を活用した授業の公開・体験	①学校運営協議会の方にオンライン授業の見学や体験をしていただき、現在の学校の様子の理解を図る。 ②授業参観で、保護者も児童と一緒にタブレット PC に触れることで、家庭にタブレット PC を持ち帰った時の教育効果を高める。	①学校運営協議会で、タブレット PC の活用に関する肯定的な意見があったか。 ②　学校評価・保護者アンケート「学校は PC や ICT 機器を効果的に活用している」で肯定的な意見が９０％以上になったか。	①学校運営協議会の時に児童のタブレット PC 活用を見ていただき、理解を図れた。 ②学校評価・保護者アンケート「学校は PC や ICT 機器を効果的に活用している」で肯定的な意見が８６％であった。	B	○授業参観や運動会の保護者の人数の制限をなくした。基本的に保護者や地域の方の人数制限を解除した。	
4	＜現状＞ ○管理職で分担しながらの教室訪問により、学級の実態を適宜把握し、指導困難な状況の場合、SA を多く配置したり、校長室で児童を預かったりした。 ＜課題＞ ○教職員によって ICT の授業スキルの差がある。 ○教員の時間外在校時間の縮減が十分ではない。	・教職員一人ひとりがやりがいと居場所が感じられる組織的な職場環境創り	①初任者２人、３年次２人等、若手の教員を中心に声をかけ、教室訪問後、良かったところを認める。同様に、教室訪問した先生方にも感謝の気持ちをもって、ICT の活用等の良い所を伝える。 ②校長の自己評価を参考に作成した自己評価シートで一人ひとりの目標を確認し、指導、助言をしてやる気を高める。	①　学校評価・教員の「学校目標が正しく理解し、児童の日常生活の指導の中で生かすことができた」で肯定的な意見が９５％以上になったか。 ②　教職員にビルド アンド スクラップの考えを浸透させ、自分流の働き方改革が１つ以上できたか。	①　学校評価・教員の「学校目標が正しく理解し、児童の日常生活の指導の中で生かすことができた」で肯定的な意見が９０％であった。目標と教職員の仕事量のバランスに問題があると感じた。 ②スクラップをする前、新しい事案が発生していると感じる（「学びの指標」、「スクールダッシュボード」等）。	B	○次年度も初任者や若手の教員は学校全体として丁寧に育て、指導していく。 ○「目安箱」のフォルダに職員の意見をボトムアップし、働き方改革の一助とする。	この件に関しては正直分からない。学校運営協議会を始め日頃我々が接するのは学校管理職のみなので、そもそも我々が関与する事があるのかも含め分かりません。